

■株主メモ

- 事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
(第88期は4月1日から12月31日まで)
- 定時株主総会 3月
- 基準日 12月31日
- 定時株主総会
期末配当金 6月30日(第88期は9月30日)
- 中間配当金 (中間配当を実施する場合)
- その他 必要ある場合は、取締役会の決議により、
あらかじめ公告いたします。
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 単元株式数 100株
- 公告の方法 電子公告により行います。ただし、事故
その他やむを得ない事由によって電子公
告による公告をすることができない場合
は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL
http://www.tok.co.jp/company/public_notice.html
- 上場取引所 株式会社東京証券取引所 市場第一部
- 証券コード 4186

(注) 平成29年6月28日開催の定時株主総会において、定款の変更につ
いて承認され上記内容のように変更されています。



【ご注意】

1. 株主様の住所変更、単元未満株式(100株未満の株式)
の買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座
を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承る
こととなっておりますので、口座を開設されている証
券会社等にお問い合わせください。なお、株主名簿管
理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません
のでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつ
きましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっ
ておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱
UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱
UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたし
ます。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本
支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取・買増請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(注)	特別口座の 口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問い合わせ	株主名簿 管理人 手続き用紙のご請求方法 ○音声自動応答電話によるご請求 電話 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/

(注) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として「株式数比例
配分方式」はお選びいただけません。

○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問い合わせ	株主名簿 管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問 い合わせください。



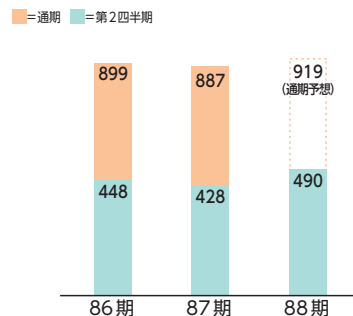
第88期 中間報告書

平成29年4月1日～平成29年9月30日

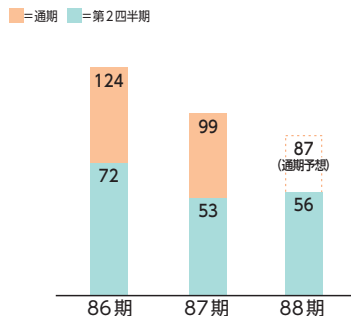
第88期第2四半期のポイント

- ポイント① 高純度化学薬品がアジア地域、特に台湾を中心に好調に推移し、エレクトロニクス機能材料もアジア地域を中心に堅調に推移したため、売上高・利益ともに前年同期を上回りました。
- ポイント② 利益面におきましては、研究開発費等の増加もありましたが、大幅な売上高の増加を受けて増益を確保しました。

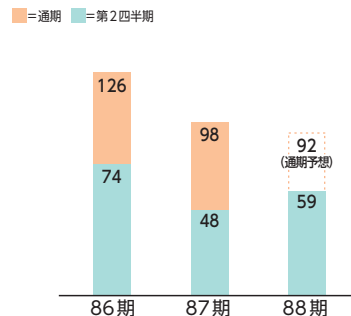
売上高 (単位:億円)



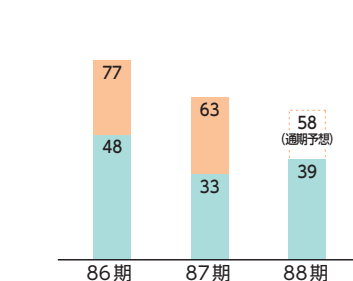
営業利益 (単位:億円)



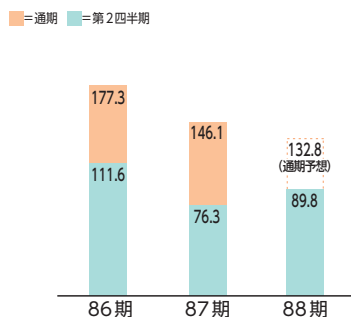
経常利益 (単位:億円)



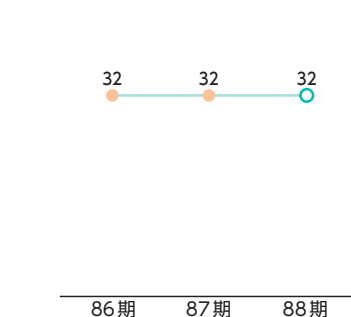
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:億円)



1株当たり当期純利益 (単位:円)



中間配当金の推移 (単位:円)



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第88期第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)の業績および当社グループにおける今後の取組みにつきましてご報告申し上げます。



取締役社長 阿久津有夫

当第2四半期連結累計期間のエレクトロニクス業界は、スマートフォンやデータサーバー市場の好調な需要に支えられて、好調に推移しました。

このような情勢の下、当社グループでは、2020年のありたい姿の実現に向け、「高付加価値製品による感動(満足できる性能、コスト、品質)を通じて、世界で信頼される企業グループを目指す。」という経営ビジョンを掲げた中期計画「tok中期計画2018」の達成に向けて、諸政策を推進してきました。引き続き当社のコアコンピタンスである世界最高水準の「微細加工技術」と「高純度化技術」を顧客密着戦略のもとでさらに進化させてまいります。

業績面におきましては、材料事業は主にスマートフォンやデータサーバー等に使用される旺盛な半導体メモリ需要に支えられて、エレクトロニクス機能材料、高純度化学薬品ともに売上を伸ばし、前年同期を売上高・利

益ともに上回りました。一方で装置事業におきましては、出荷済み装置等の検収時期の遅れもあり、売上は前年同期を下回りました。また、受注は、ユーザーにおける設備投資先送りの影響を受け、低調に推移しました。

今後も、株主の皆様のご期待に応えられるようグループ一丸となって邁進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社は平成29年12月期より、決算期を毎年3月31日から12月31日に変更しております。これに伴いその経過期間となる第88期は、平成29年4月1日から平成29年12月31日までの9ヵ月決算となります。

Q1 第88期第2四半期の業績と取組みについて

当第2四半期の材料事業は、アジア、日本向けに堅調に売上を伸ばしました。特に高純度化学薬品は、台湾を中心に出荷量を伸ばし、また、エレクトロニクス機能材料も、好調なアジアの半導体、ディスプレイ市場に支えられて、順調に売上を伸ばしました。その結果、売上高は前年同期比15.0%増の478億26百万円となりました。

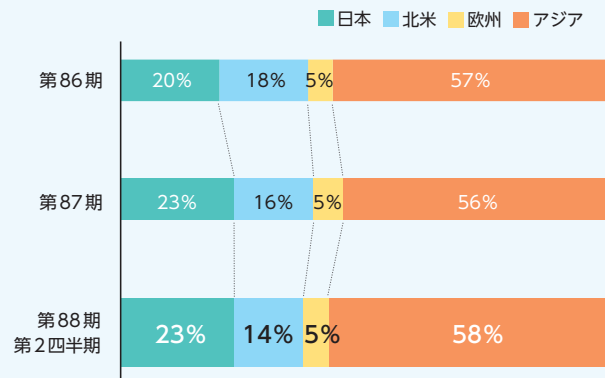
利益面におきましては、高純度化学薬品の売上が増加したことによる若干のプロダクトミックスの悪化の影響はあるものの、3D-NANDメモリ向けのKrF（フッ化クリプトン）フォトレジストや、高密度実装材料等の高付加価値製品の売上増加影響を受けて、営業利益は78億66百万円（同6.9%増）となりました。

一方、装置事業はシリコン貫通電極形成システム「ゼロ

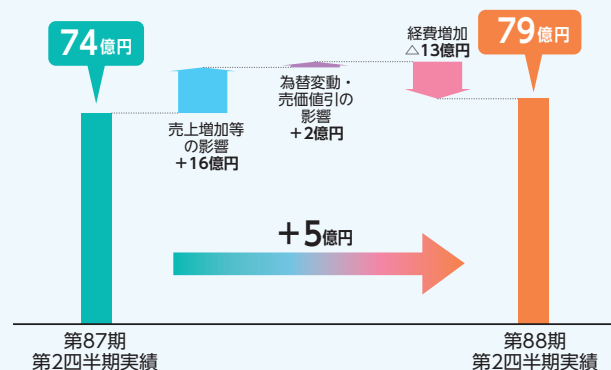
ニュートン®」が、データサーバー向けなどの高付加価値品の半導体製造工程用として採用を獲得しておりますが、パソコンやスマートフォンなどへの広がりには力強さを欠いていることから、ユーザーにおける生産能力増加投資が抑制され、売上高・受注ともに減少し、売上高は12億38百万円（同7.3%減）、営業損失は、△3億79百万円で赤字拡大となりました。

その結果、売上高490億51百万円（同14.3%増）、営業利益56億3百万円（同4.1%増）、経常利益59億10百万円（同23.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益39億21百万円（同18.7%増）となりました。

半導体用フォトレジストの地域別売上構成



営業利益の増減内訳（材料事業）



Q2 第88期通期の見通しについて

材料事業は、半導体用フォトレジストや高密度実装材料が引き続き堅調に推移することに加え、高純度化学薬品のアジア地域における需要拡大が予想されることから、売上高は899億円（前年比14.0%増*）となるものの、経費増加と決算期変更に伴う一時費用の発生により営業利益は前年と同水準の124億円（同0.4%減*）を見込んでいます。

また、装置事業におきましては、出荷済み製品の検収遅れ等の影響もあり、売上高は20億円（同4.2%増*）、営業損失は△7億円を見込んでいます。

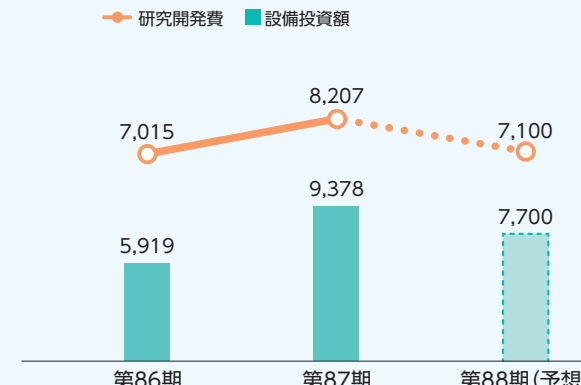
設備投資につきましては、研究開発の中核機能を担っている相模事業所への新研究棟の建設や国内外拠点の生産設備や評価装置の増強により77億円を予想しています。

通期の業績予想につきましては、売上高は919億円（同13.8%増*）を見込んでおります。営業利益は経費増加や決算期変更に伴う一時費用の発生等もあり87億円（同6.6%減*）、経常利益は92億円（同0.9%増*）、親会社株主に帰属する当期純利益は58億円（同5.7%増*）を予想しています。

※実績補正との比較になります。

第88期より決算期を毎年3月31日から毎年12月31日に変更しており、決算期変更の経過期間となる当期は9ヵ月間の変則決算となっております。

研究開発費／設備投資額（単位：百万円）



※第88期は決算期変更のため、国内4-12月の9ヵ月、海外1-12月の12ヵ月となります。

第88期通期の見通し（単位：百万円）

	平成29年12月期 (第88期) 予想	平成28年12月期 実績補正*
売上高	91,900	80,761
営業利益	8,700	9,310
経常利益	9,200	9,119
親会社株主に帰属する当期純利益	5,800	5,485

※平成28年12月期実績補正は、平成29年12月期(第88期)業績予想を比較できるよう、3月決算会社(当社および国内子会社)の平成29年3月期(第87期)業績を、9ヵ月(平成28年4~12月)として補正した試算値です。

材料事業は前年同期を上回りましたが、装置事業は前年同期を下回りました。

材料事業はエレクトロニクス機能材料がアジア地域を中心に堅調に売上を伸ばしたことに加えて、高純度化学薬品が台湾向けに好調に推移したため、売上高は前年同期を上回りました。

一方、装置事業は、出荷済み製品の検収遅れの影響などを受け、売上は前年同期を下回りました。

この結果、材料事業の売上高は、478億26百万円（前年同期比15.0%増）、内部取引を除いた装置事業の売上高は、12億26百万円（同7.2%減）となりました。

部門別売上高構成 (単位:百万円) ()内は売上高構成比率

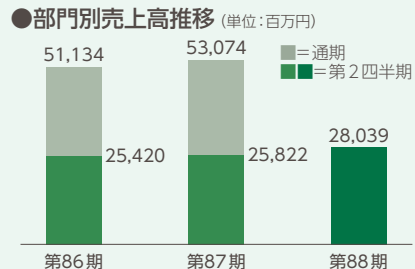


材料事業

エレクトロニクス機能材料部門



半導体用フォトレジスト



売上高 **28,039**百万円

前年同期比8.6%増

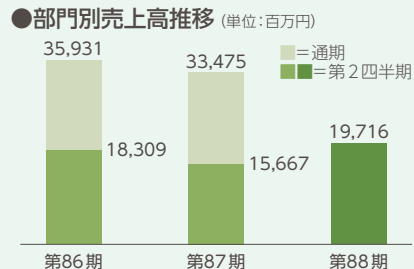
半導体用フォトレジストが、アジア地域向けを中心に最先端製品の出荷数量の増加が見られたことから、売上高は前年同期を大きく上回りました。その主な要因は、旺盛な半導体メモリ需要に支えられた3D-NANDメモリ向けKrF*1フォトレジスト、半導体パッケージやMEMS*2用のフォトレジスト等の販売量の増加によるものになります。

*1: フッ化クリプトンの略
*2: 微小電気機械システムの略

高純度化学薬品部門



フォトレジスト付属薬品



売上高 **19,716**百万円

前年同期比25.8%増

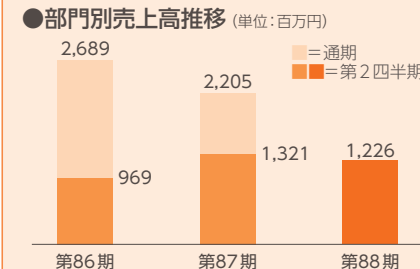
半導体用フォトレジスト付属薬品は、アジア地域の旺盛な需要に伴い好調に推移しました。地域別では、特に台湾向けに顧客の新規ラインの立ち上げ等により使用量が大きく増加したことに加え、日本やその他アジア地域向けの売上も好調に推移したため、売上高は、前年同期を大きく上回りました。

装置事業

プロセス機器部門



ゼロニュートン®用 ウエハ貼付装置「TWMシリーズ」



売上高 **1,226**百万円

前年同期比7.2%減

シリコン貫通電極形成システム「ゼロニュートン®」は、データサーバー向け等での採用拡大が進む一方、パソコンやスマートフォン向け等への広がり力強さを欠いていることから、ユーザーにおける生産能力増強投資が抑制されているため、受注は低調に推移しました。また、出荷済み製品の検収遅れの影響を受け、売上は前年同期を下回りました。

連結損益計算書の概要

損益の状況

科 目	(単位：百万円)	
	当第2四半期 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前第2四半期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
売上高 PICK UP ①	49,051	42,897
売上原価	32,079	27,052
売上総利益	16,972	15,845
販売費及び一般管理費	11,369	10,461
営業利益 PICK UP ②	5,603	5,383
営業外収益	574	876
営業外費用	267	1,455
経常利益 PICK UP ③	5,910	4,803
特別利益	61	268
特別損失	223	106
税金等調整前四半期純利益	5,748	4,966
法人税、住民税及び事業税	1,336	1,242
法人税等調整額	61	172
四半期純利益	4,350	3,551
非支配株主に帰属する四半期純利益	428	248
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,921	3,303

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

PICK UP

①売上高

アジア地域の旺盛な需要に伴い半導体用フォトレジストや高密度実装材料、高純度化学薬品等が予想を上回る出荷量となり前年同期を大きく上回りました。

②営業利益

装置事業の営業損失や経費増加はあったものの、材料事業における販売数量増加により前年同期を上回りました。

③経常利益

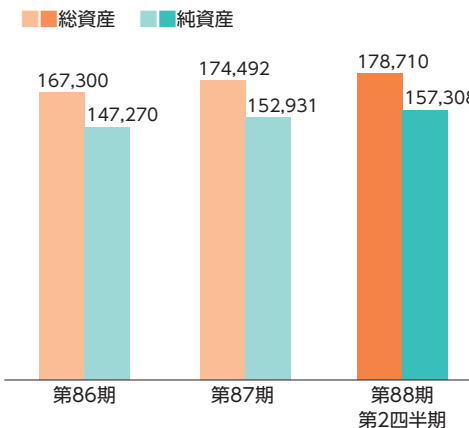
営業利益の増加や円安による収益改善効果等により、前年同期を上回りました。

連結貸借対照表の概要

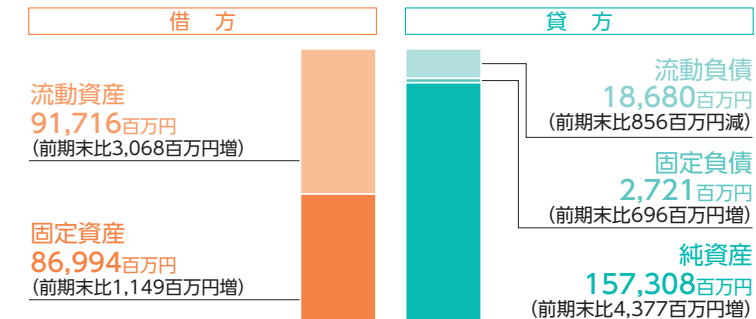
資産の状況

自己資本比率 **84.8%**

総資産・純資産の推移 (単位：百万円)



第88期第2四半期



資産の部

- ・投資有価証券評価額増加により投資その他の資産の増加
- ・販売増加により現金及び預金、受取手形及び売掛金の増加

負債・純資産の部

- ・利益剰余金の増加
- ・その他有価証券評価差額の増加

連結キャッシュ・フローの概要

連結キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは増加

税金等調整前四半期純利益や減価償却費の増加。

投資活動によるキャッシュ・フローは減少

有形固定資産の取得による減少。

財務活動によるキャッシュ・フローは減少

配当金の支払による減少。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科 目	(単位：百万円)	
	当第2四半期 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前 期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,240	12,476
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,057	△13,402
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,388	△2,324
現金及び現金同等物に係る換算差額	△21	△358
現金及び現金同等物の増減額	1,773	△3,608
現金及び現金同等物の期首残高	35,907	39,516
現金及び現金同等物の四半期末残高	37,680	35,907

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。



より詳しい情報につきましては、当社のホームページ <http://www.tok.co.jp/> をご覧ください。

顧客密着戦略の進化に向けた活動状況

台湾東應化社ではスマートフォン等に使用される半導体等を製造する上で必要となる、洗浄液やシンナーなどの高純度化学薬品を製造する新工場を建設し、供給を開始いたしました。

新工場では「良い原料と良い設備を用意し、良い条件、良い環境で生産する」という、当社グループにおける「高純度なものづくり」を進化させ、徹底的に実践すると共に、当社ならではの顧客密着戦略における「地の利」を最大限活かせる体制を構築しています。

今後も様々なステークホルダーの皆様が高い満足を得られるような企業グループを目指し、様々な活動を推進していきます。



台湾東應化社
銅鑼第二工場



台湾東應化社の取り組みに関しては、CSRレポート2017に記載されております。

<http://www.tok.co.jp/csr/report/report2017>

より“身近な”TOKを目指して

当社では、「開かれた株主総会」を心掛け開催しているほか、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを促進するため、CSR活動についてその取り組みと結果をまとめた「CSRレポート」、当社の業績や事業戦略の詳細をまとめた「アニュアルレポート」を発行し、ホームページ上にも掲載しております。

また、個人投資家の皆様方と直接ふれあい、当社グループの事業内容、事業方針、事業動向などのご理解を深めていただくために「個人投資家説明会」を各地で開催しています。

当期は北海道、東京、京都、大阪の4都市にて開催し、多くの方々にご来場いただきました。今後も、経営戦略や将来展望など皆様が重視されるポイントをわかりやすくご説明し、より良い信頼関係が構築できますよう、皆様のお近くで、できるだけ多くの説明会を随時開催してまいります。是非ともご参加ください。



個人投資家説明会

最新情報、詳細情報は当社ホームページに記載されております。

<http://www.tok.co.jp/>

株式の状況

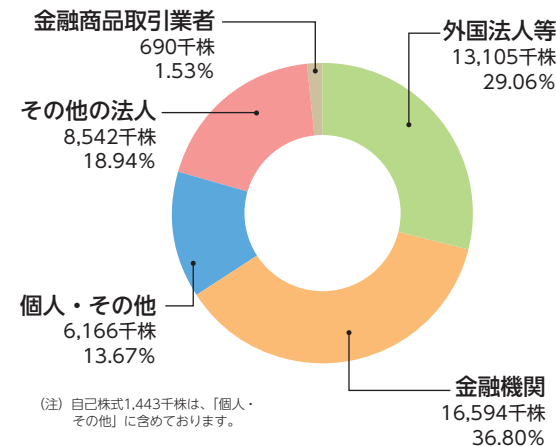
発行可能株式総数	197,000,000株
発行済株式の総数	45,100,000株 (自己株式1,443,251株を含む)
株主数	5,159名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,291	7.54
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,906	6.66
明治安田生命保険相互会社	1,826	4.18
MLPFS CUSTODY ACCOUNT	1,494	3.42
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,207	2.77
日立化成株式会社	1,069	2.45
株式会社横浜銀行	1,026	2.35
公益財団法人東京応化科学技術振興財団	984	2.26
三菱UFJ信託銀行株式会社	953	2.18
三菱UFJキャピタル株式会社	860	1.97

(注) 1. 当社は、自己株式を1,443千株保有しておりますが、上記大株主から除いております。
2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いた株式数(43,656,749株)を基準に算出しております。

所有者別株式分布状況



会社概要

社名	東京応化工業株式会社 TOKYO OHKA KOGYO CO., LTD.
設立	昭和15年10月25日
資本金	14,640,448,000円
従業員数	1,611名 (連結) (当社グループから当社グループ外への出向者および嘱託者を除く) 〒211-0012 神奈川県川崎市中原区中丸子150番地 電話044 (435) 3000 (代表)

役員

取締役および監査役

代表取締役社長	阿久津 郁夫
取締役社長	佐藤 晴俊
取締役	水木 國雄
取締役	徳山 信生
取締役	種市 昭嗣
取締役	栗本 弘典
取締役	関口 一
常勤監査役	藤下 深高
監査役	斎藤 広一
監査役	高橋 志政
監査役	佐藤 浩一

(注) 1. 取締役栗本弘典氏、取締役関口典子氏は、社外取締役です。
2. 監査役斎藤広志、監査役深田一政および監査役高橋浩一郎の各氏は、社外監査役です。

執行役員

※執行役員社長	阿久津 郁夫
専務執行役員 経理本部長	柴村 洋一
専務執行役員 経営企画室長	萩原 嘉男
※常務執行役員 開発本部長	佐藤 晴俊
※常務執行役員 総務本部長	水木 國雄
常務執行役員 TOK先端材料株式会社代表取締役社長	柴垣 篤郎
※執行役員 材料事業本部長	徳山 信生
※執行役員 営業本部長	種市 昭嗣
執行役員 新事業開発室長	種市 昭嗣
執行役員 TOK先端材料株式会社代表理事副社長	張 俊史
執行役員 開発本部副本部長	佐藤 和史
執行役員 台湾東應化股份有限公司董事長兼總經理	入野 浩一
執行役員 材料事業本部副本部長	村上 裕一
執行役員 TOKYO OHKA KOGYO AMERICA, INC. 取締役社長	土井 宏介
執行役員 プロセス機器事業本部長	本川 司

(注) ※印を付した執行役員は、取締役を兼務しています。